

ベンチャープロジェクト事例紹介

思い切って社会に飛び込んだベンチャーたち

毎年全国のベンチャースカウトたちが実に様々なプロジェクトに取り組んでいます。今回は、「思い切って社会に飛び込んだ」という感じの奉仕活動プロジェクトを二つ紹介します。多くのスカウトたちがどんどん社会と関わり合う活動を広げていったら、スカウト運動への社会の理解ももっと広がっていくことでしょう。

介護老人保健施設での福祉活動に飛び込んだ！
長野県連盟 大町第1団 西澤佑夏里さん

プロジェクト名：社会福祉の実践

目的：老人ホームで、ボランティア活動を行う。これからは高齢者社会になるといわれている。そのときに自分が何をすることができるのかを学ぶ。また、老人ホームの皆さんと接することで、利用している方々が何を希望しているかを理解する。利用者のために奉仕する。

※ホームでは利用者の方への配慮から、活動中の写真を撮っていません。施設の写真と普段のスカウト活動や第21回世界スカウトジャンボリーに参加したときの写真を掲載しています。

■きっかけから実施へ



高齢化社会に関するニュースを見て、将来この社会を支えていかなければならない私たちに何ができるか、考えてみました。父が社会福祉士をしており、祖父がホームに通っていることもあって、そのホームのお手伝いをしてみようと思い、高校2年生の冬休みに挑戦しました。

お手伝いをしたいと、思い切ってホームに申し出たところ、スタッフの方々からはとても喜んでもらったのですが、「いろいろと難しい面もあるよ」と忠告も受けました。説明を聞いたときは大丈夫だろうと思ったのですが、実際に始めてみると、利用者の方々のコミュニケーションのとり方など想像していなかった難しさがあり、はじめのうちは毎日反省ばかり繰り返していました。



■自分にできることから

利用者の方々の部屋のお掃除や洗濯、食事の準備・お手伝い、レクリエーション、お茶配りなど、様々な仕事があり、一日はあっという間に過ぎていきます。その合間に利用者の方に話しかけてみたりしますが、相手の話がうまく聞き取れなかったり、こちらから話しかける話題がなかったり、怒らせてしまったり、コミュニケーションのほうではへこんでばかりでした。

それでも一つ自分なりによくやったと最初に思えたのが掃除です。家や学校ではいつも嫌々仕方なく掃除をしていた私でしたが、ここでは「しっかりきれいにすると気持ちがいい！利用者の方々が喜んでくれる！」という達成感があって、積極的に掃除をがんばることができました。

他の仕事も少しずつちゃんとできるようになってきた頃、「自分にできることをしっかりがんばればいい」と思えるようになってきました。その頃から、利用者の方々と



も少しは上手にコミュニケーションがとれるようになってきたかな、と思います。

■周囲の方々から学んだこと

スタッフの皆さんもいろいろ大変なのですが、いつも笑顔でキープしていて、すごいなと思いました。人が笑顔でいると、周りの人もこよかになってきます。

そんなことから「感謝」について考えました。奉仕をすると、利用者の方は「ありがとう」といってくれます。「ありがとう」といわれると、元気が出ます。その元気で私はがんばることができます。一つの感謝から始めて、感謝は積み重なって、気がつけばみんなが笑顔でいられます。とても幸せなことだと感じます。

学校での掃除は、しなくてははいけない、掃除の時間があるからする、という気持ちでやっています。先生の教え方に不満をもつと、すぐに先生の悪口を言ってしまう。学校で感謝することはあまりありません。そんなことが多いので、私にとってこの奉仕の経験はとても大きなものでした。

小さな感謝も、「幸せ」に繋がると感じます。「幸せ」が何なのかよくわからないけれど、私が奉仕をできたことは幸せだと感じています。

■人の役にたたい

このプロジェクトを通じて、私はやはり最終的に「人の役にたたい」のだと気づきました。

福祉の道や人を楽しませたり和ませたりする音楽の道などいろいろ考えましたが、やはり自分に一番フィットする野外教育の世界に進もうと思います。地元の大学に日本で唯一の教育学部野外教育専攻があるので、そこにこの春進学します。

人との関わり合いの中でいろんなことを学んで、もっと人の役に立つことができると大人になっていこうと思います。



地域の国際支援活動に飛び込んだ！
愛媛県連盟 松山第15団 三浦利之くん

プロジェクト名：チャリチャリティー

目的：国際支援のチャリティー活動を通じて、平和とは何かを知り、自分たちに何ができるか考える。周りのみんなにも知ってもらって寄付を集める。

■きっかけから実施へ



識字教育について学ぶユネスコのユースセミナーに参加して、地元のNGO「えひめグローバルネットワーク」の方と知り合いました。その方といろいろお話をしているうち、町に捨てられた自転車を集めてモザンビークに送って役立ててもらったり、銃を鍛えと交換したり、ミシンなどの生活用品を送ったりする国際支援活動があることを知り、「これなら僕たちでも何かできるんじゃないか」と思って、ベンチャー隊の仲間と取り組むことにしました。

ネットワークの方々からその話をすると、とても喜んでくれました。それからいろいろ相談させてもらいながら、僕たちは周りのみんなにモザンビークの窮状について知ってもらうこと、それからできる範囲で寄付をしてもらうことにしました。

ネットワークの方々からその話をすると、とても喜んでくれました。

それからいろいろ相談させてもらいながら、僕たちは周りのみんなにモザンビークの窮状について知ってもらうこと、それからできる範囲で寄付をしてもらうことにしました。

■広がる輪

まず僕たちはモザンビークの窮状を知ってもらい、寄付を集めるためのポスターとチラシを作り、まずはスカウト関係者の間で広めていくことにしました。団のB-P祭などの機会にみんなに宣伝しながら寄付を集めました。

他にもスカウト仲間、学校の友だちや近所の人、塾の先生など、接する機会がある人たちにどんどん説明して、親にも親の友だちから寄付を集めてもらったりもして、応援の輪が広がっていきました。

さすがに周りのみんながどこまで理解してくれたかは疑問も残りますが、「がんばってるみたいだから応援してやる」といってもらうとますます気合が入りました。

■意外とみんな関わり合って生きている

驚いたのは高校の友だちです。普通の高校生は困っている外国人の人のための寄付なんて、普段はそんなお金の使い方をしません。でも、僕たちのがんばりを見て寄付をしてくれるのです。



プロジェクトをひびく同期の谷本君と

それから、同じ頃に別のプロジェクトで市内の中高生を集めてフォーラムをやったのですが、集まってきた見知らぬ子らが実はボーイスカウトに興味を持っていたり、共通の友だちがいたり、同じイベントに参加していたことがあったり、ということがわかりました。なんだかみんな意外と関わり合って生きているもんだなあと感じました。



Tシャツに書いてもらった応援メッセージで気持ちが入る

■愛媛のベンチャーフォーラム会場へ

「チャリチャリティー」は、各地でモザンビークの窮状を伝えながら寄付を募る自転車キャラバンで、集まった寄付を様々な支援活動にあてモザンビークに役立ててもらおうというものです。今回はネットワーク全体で2,500kmにおよぶ距離（モザンビークの海岸線と同じ距離）を自転車で走り、寄付を集めます。僕たちもその一部、20kmの区間を担うということで、愛媛県のベンチャー全員フォーラムの会場をゴールにして、みんなのメッセージを寄せ書きしてもらったTシャツを着て、地域の人たちに宣伝しようということになりました。ところがフォーラム当日はどしゃぶりの雨で、自転車をこぐ僕たちを見てくれる人もほとんどなく、かなり地味なキャラバンになってしまったのは残念です（あまりにすごい雨で自転車で走っている写真もないのです！）。フォーラム会場は山の上であり、どしゃぶりの中の上り坂でひたすらしんどかったです。



ゴールのフォーラム会場

でも、ベンチャーフォーラムの会場にえひめグローバルネットワークの方にも来ていただき、県のベンチャー全員にモザンビークの話をしてもらい、集めた寄付を手渡すこともできましたので、僕たちのプロジェクトの目標は達成できたと思っています。

■これからは自立して世界に貢献したい

このプロジェクトを通じて一番強く感じたのは、寄付をしてくれた周りの人への感謝の気持ちです。そしてその寄付を通じて、モザンビークの人たちの生活が少しでも良くなるのが嬉しいです。やった！があった！と思います。これからもこうした活動を手伝っていかれるとも思っています。

僕はもともと勉強があまり好きじゃないので、好きじゃないことはしなくてもいい、というわけがこの春、地元の工場に就職します。ベンチャーの仲間や学校の友だちからは「お前が就職なんて大丈夫か」といわれるのですが、そのうち「俺はもう自立した大人なんだぜ」とみんなにいつかやろうという野望をひそかに持っています。実社会でしっかり仕事をして、世界に貢献したいというのが今の僕の目標です。



フォーラムでのネットワークの方